

# TENOHASI

てのはし

地球と隣のはっぴい空間・池袋

会報誌第40号 2019年12月1日発行



念願だった「自分のアパート」で

P1 この冬もクラウドファンディングにご協力下さい！

P6 炊き出しに並ぶ人は減ったけど

P7 災害時に避難所に拒否される??

P9 活動報告

炊き出し調理班 炊き出し公園班 炊き出し医療相談 鍼灸班 ほっと友の会

生活応援班 夜回り ハウジングファースト東京プロジェクト

P18 インタビュー/生活保護なんて知らなかった。死ぬしかないと思ってアパートを出た。

P22 台風被災地支援と TENOHASI のこれから

P25 資金・物資のご寄付御礼

P27 TENOHASI の活動

この冬もクラウドファンディングにご協力ください!!



孤立無援の路上生活者を「個室型シェルター」で支援したい

いつもご支援ありがとうございます。

TENOHASI は 2003 年から 16 年間、池袋を中心に、孤立無援の路上生活の方々を支援してきました。活動資金のほとんどは皆様からの募金です。多くのボランティアの方による炊き出しと夜回りで路上生活の方々とのコミュニケーションを図り、路上脱出・社会復帰へとつなげてきました。

その活動の中で、都内唯一の「個室アパート型シェルター」による全く新しい支援を 4 年前から始めました。

そのシェルター維持費と支援費 100 万円を募るためにこの冬もクラウドファンディングを行います。

12 月 7 日から CAMPFIRE で開始します(予定)。詳しくは TENOHASI のブログ・フェイスブック・メールマガジンをご覧ください。



炊き出し調理メンバー 2019 年夏祭りにて

## 個室型シェルターとは

路上生活から脱するには多くのハードルが存在します。そのハードルをできるだけ少なくして、より多くの方が路上からの脱出を果たせるように支援したい。そのために TENOHASI と連携団体が運営しているのが「個室シェルター」です。



個室シェルターの一室

路上生活からすぐに社会へ復帰することは容易ではありません。生活保護を受けても、数ヶ月から時には 1 年以上の「観察期間」を集団生活の宿泊所で過ごして、行政によって「独り暮らし可能」と認められないと自分のアパートを契約することができないという運用がほとんどです。TENOHASI は、その期間を落ち着いて個室で過ごし、社会復帰への準備をしていただくための部屋と、サポートする人材を増やしていきたいと思っています。



自分で契約したアパートへ

これは 1990 年代にアメリカで生まれた「ハウジングファースト」という考え方がもとになっています。アメリカでも観察期間中は集団生活をするようになっていましたが、路上に戻ってしまう例が後をたちませんでした。初めから個室で生活し、必要な支援を届けるハウジングファーストほうが成功の可能性が大きいことが実証されています。



アメリカのハウジングファースト利用者

## 再び路上生活へ戻ってしまうという「現実」

先述のように、自分の家がない方が生活保護を申請すると、ほとんどの場合（東京都とその近隣県）、福祉事務所は当面の住まいとして「無料低額宿泊所」を紹介します。その多くは写真のように個室ではなく、集団生活です。



都内に実在する宿泊所

PHOTO by 探偵 FILE

プライバシーが守られているとは言いがたい環境です。

大人なのに門限や飲酒禁止のルールもあり、自由が制限されます。食事は選ぶことができず、宿泊所が用意したものを食べると決まっているところがほとんどです。そして「無料低額」の名前とは裏腹に、宿泊費・食費・支援費などの名目で生活保護費のほとんどが徴収され、手元に残る金額が一日 1000 円から低いところでは 300 円というのが普通です。

プライバシーが保護されず自由もお金もほとんどない生活がいつまで続くのかわからない先行き不安とストレスは、健康な人でも耐えがたいものです。まして、鬱病などの精神疾患や、障害を抱えた人も路上生活者の中には少なくありません。その結果、宿泊所から失踪して、路上生活に戻る人が後を絶ちません。「路上の方がまだまし」「路上の方がよっぽどほっとする」これが多くの経験者の声です



そして再び一人路上へ…

路上生活に疲れた方には、まずプライバシーと自由が守られた「ほっとできる」空間が必要です。わたしたち TENOHASI が「個室型シェルター」が必要だと考える理由はここにあります。

## 「個室型シェルター」からアパート契約へ

「個室型シェルター」を経て自分の部屋を契約した方の声です。プライバシー保護のため一部変えています。

### 小林勇吉さん(仮名)64 歳の場合

建設現場で働いていたが、10 年前に怪我をして失業。孤立無援で生活保護を受けては無料低額宿泊所から失踪を繰り返していた。

「生活保護であちこちの宿泊所に入ったけど、どこも相部屋。

最初は我慢するけど、1~2 ヶ月もするとストレスが貯まって辛くなって、最後は出てくる、その繰り返し。

アパートだと眠りが違うんだよ。宿泊所では人間関係のストレスや雑音やいびきで夜も眠れない。

個室だとゆっくりと眠れる。個室じゃなかったらまた出てたね。

最近では自炊しているから料理も覚えたよ。TENOHASI には世話になってる。こんなに面倒見てくれるところは他にはないよ。アパート入ってからも定期的に訪問に来てくれて、クリニックでも話を聞いてくれる。だからなんでも相談できる。他ではこんなことないよ。よくしてくれるのは最初だけ。あとは自分オンリー。ひとりぼっち」



### 木島 悟さん(仮名)73歳の場合

工場で働いていたが、7 年前に会社が倒産。高齢で仕事が見つからず路上生活に。

「宿泊所にいた頃はストレスが溜まるから、金があればすぐパチンコ行ってた。でも宿泊所じゃ保護受けてても自分の手取りなんて雀の涙だろ、すぐすっからかんさ。

アパート入ってからはもうパチンコしたいとは全然思わないね。

風呂入って、テレビ見ながら一杯やればもう満足だもの。心が安まるね。

部屋は毎日掃除してるよ。ホコリとか溜まるのイヤなんだ。俺の部屋だもの」



## 大石 健二さん(仮名)。 72歳の場合

運送の仕事をしてきたが高齢と病気で収入が減り、2年前、家賃を払えなくなってアパートから出た。「仕事がなくなって家賃も払えなくなったんで、もう死ぬのと思ってあちこちさまよったんです。でも死にきれなくて、池袋で野宿。だれも助けってくれないからこのまま野垂れ死ぬと思ってました。

そうしたら TENOHASI さんに「アパートにすぐ入れますよ」って言われてビックリしたんです。

もう一回アパートで暮らせるとは思わなかったから。「今はちゃんと薬飲んで毎日散歩してるから、体調も回復して元気になりました」・P18 からのインタビュー参照



## 「個室型シェルター」の実績と今後

これまで TENOHASI は年間 50~100 人の路上生活者の方の自立を支援してきました。現在池袋周辺には80~100人の路上生活者がいて、その数は他の地域からの流出入によって変化します。

一人でも多くの方を支援したい。それがわたしたち TENOHASI の願いです。

現在わたしたち TENOHASI が支援のために用意している「個室型シェルター」は現在 6 部屋で、常に入居待ちの状態が続いています。



2016 年春から 2019 年 9 月までの 3 年半で 30 人がシェルターから自己契約のアパートに移られました。その後、残念ながら亡くなった方 2 名・収監された 2 名・失踪された方 1 名。収監・失踪された方とはその後も関係を保ち、支援を続けています。

**段ボールの家に生まれ、**

**アスファルトの床で育った人はいません。**

**一人でも多くの方に、温もりのある部屋で、もう一度人生の再スタートをしてほしい。それがわたしたちの願いです。**

# TENOHASI 活動報告

## 炊き出しに並ぶ方は 減ったけれど・・・



By Geoff Read

いつもご支援ありがとうございます。

今更で申し訳ありませんが、昨年度から今年度の活動報告をさせていただきます。

TENOHASIが昨年1年間で、生活保護や自立支援センター利用申請を支援した人は約60人でした。

月2回の炊き出しに並ばれた方は、平均180人まで下がりました。4年前の223人と比べると約20%の減少です。

\*下のグラフをご覧ください。  
毎週の夜回りで出会った路上生活の方の平均は73人で、4年前の91人と比べるとこれも約20%の減少です。

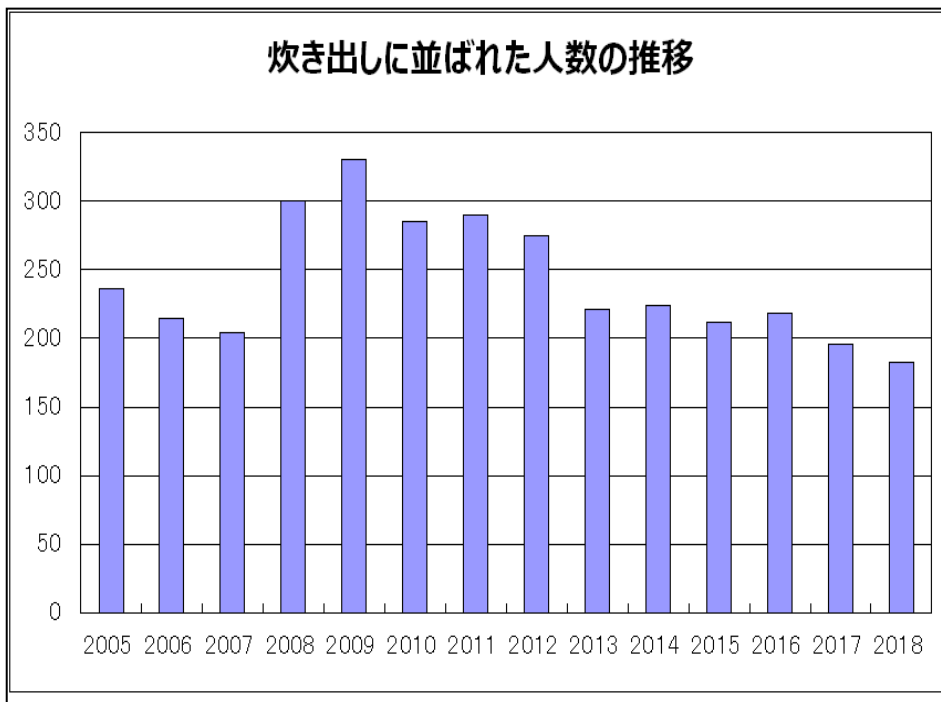
路上生活を余儀なくされている人が減少したことは誠に喜ばしいことです。しかし、喜んでばかりはいられません。

まず、支援実績からすればもっと減っているはずで、新たに路上生活になった人、一度は生活保護や仕事で路上を脱出したけれど、再び路上生活に戻った人が相当数いらっしゃるということです。

また、池袋は昨年から今年にかけて大規模な再開発が進ん

でおり、公園やビルの改修で路上の方がいられる・寝られる場所がどんどん減っています。排除が進んだことで、路上生活者がますます見えなくなっている現状があります。

そして何よりも、まだ家のない生活を余儀なくされている人がこれだけいらして、社会からの厳しい差別・偏見にさらされています。だれもが心安まる家と居場所をもつ社会を目指して活動していきます。



# 災害時に避難所に拒否される???

台風19号が日本を襲った日、TENOHASERは危険防止のため炊き出しを中止しましたが、中止を知らずに来る人のために公園に行きました。嵐の中来た46人に食糧



嵐の中の食糧配布

をお渡しし、26人(半分以上は路上生活ではない一般の方)を豊島区役所の避難所にご案内しました。

ちょうどその時間、台東区が避難所に助けを求めた路上生活者を「住所がない」と拒否したことは皆さんご存知のことと思います。

1961年の「災害対策基本法」で、自治体は「避難した居住者・滞在者その他の者」のために避難所を設営しなければならぬと定められました。

それから58年もたった今、「路上生活者は避難所に入れない」と違法な行為を平然と行って、人を嵐の中に放り出したことには怒りを禁じ得ません。

しかし、これは台東区だけの問題ではありません。「避難所に入れるのは区民だけ」とした区が他にもありました。

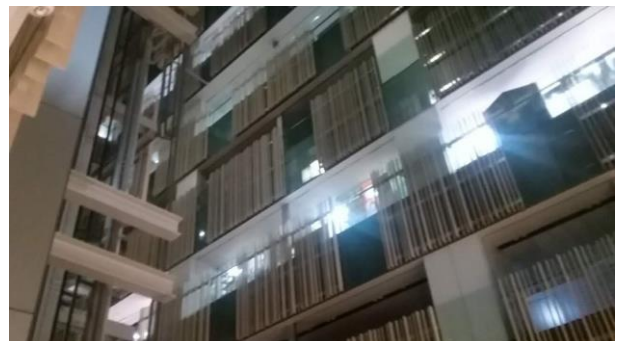
実は私たちも「豊島区が路上生活者を受け入れないのでないか」と危惧して避難所を訪ねました。池袋の再開発で路上生活者の排除を進めてきた区

がそういう対応をする可能性は否定できなかったからです。結果的に豊島区は避難者の住所も氏名も聞かなかったので排除はなかったのですが、「どうせ入れない」と思って避難所に行かなかった人が何人もいたことが後でわかりました。

その後も、排除を肯定する意見がネットにあふれています。「怖い」「物が盗まれる」「自己責任だ。必要なら支援団体が避難所を作って一般人とは別に収容しろ」「あの悪臭は暴力だ」等々。

「ホームレスなら嵐の中に放り出して死なせてもいい」と主張する憎悪や差別は、社会で薄れるどころか再生産されていることを思い知らされました。

炊き出しや夜回りを粛々とやっているだけでいいのか? 問われているのは私たちかもしれません。



10月12日夜の参加スタッフと豊島区役所。台東区のことはまだ何も知らず・・・



# 「人命軽視」台東区非難

## ホームレス拒否

台風19号を避難所での「ごう」としたホームレスの男性の利用を台東区が拒んだ問題は、「人の生命及び身体を最も優先して保護する」とする災害対策基本法の理念をないがしろにする自治体の存在を浮き彫りにした。だが、そんな自治体ばかりではない。ホームレスの当事者を支援するNPO法人「TENOHASHI(てのはし)」の清野賢司事務局長(58)は、「豊島区は誰でも受け入れた」と振り返る。

台風19号が猛威を振るった12日。清野さんら「てのはし」の関係者6人は、午後4時半ごろから東池袋中央公園で、ホームレスの人にアルファ米や缶詰などを配り始めた。20

03年の結成以来、月2回ペースで続けている。中止することは事前にチラシなどで告知していたが、それでも訪れる人のため、いつもの場所で待機していた。

## 台風19号 避難誘導のNPO

# 豊島区は受け入れ



台風19号が接近した当時のことを振り返る清野賢司さん(豊島区)

しばらくして、近くの商業ビルで雨風をしのぐ人が大勢いるのに気づき、区が開設する避難所の存在を伝えて回ることにした。顔見知りのホームレスの人もいれば、たまたま池袋を訪れたらしい若者や高齢の夫婦も。避難所でも近い区役所へ

内したという。区防災危機管理課によると、避難所は12日午前9時〜13日午前8時半に開設し、8カ所で訪れた人を誰でも受け入れた。トラブルは特になかったという。清野さんは「区が訪れた人を分け隔てなく受け入れたのは評価できる。目の前の人を守るのは自治体のあるべき姿勢だ」と指摘する。一方の台東区は、12日に避難所を訪れた2人の当事者に対し「住所がない」との理由で受け入れを拒否し、問題となっている。清野さんは「台東区はある種の属性の人は守らなくいいと宣言したに等しい。私は『人命軽視事件』と呼んでいる」と非難した。

# 活動報告

## 炊き出し調理班



炊き出しの前半は調理です。メニューは主に肉野菜汁とご飯。夏祭りではそうめん、越冬活動では年越しそばやお雑煮なども調理しています。

### ★衛生的な食事作りのために

調理に使用する道具は寸胴鍋、炊飯釜、包丁、まな板、切った野菜を入れる衣装ケースなど。調理終了後に洗った道具も、使用する前にもう一度徹底的に洗っていきます。重い寸胴鍋を洗うのは一苦労。冬は手が

悴みますが、衛生的な食事作りのために「洗い場」の作業は手を抜くことができません。

### ★炊き出しに並ぶ方々を思っ

て野菜汁に使用する大量の野菜を手分けして切っています。「野菜は小さく切ってね。咀嚼する力が弱い人もいるから。固い部分はもっと小さくね」など、作業場には炊き出しに並ぶ路上生活者の方たちを思う言葉がいつもあります。

### 【参加者の声】

・「温かくて美味しい料理を食べてもらいたい」一人ひとりの作業にも気持ちが入る。やがて誰かを手伝ったり、やる事を探したりが自然にできてくる。TENOHASIIの活動が長く続くのは、初参加の人にとっても居心地が良い雰囲気が出てくるから。  
無心に野菜を切っていると、「私でも少し役に立っているのかな」と思えて元気をもらえます。

### ★和気あいあいと

お昼休憩では、みんなで賄いを食べながら交流を深めます。

賄いは焼きそば、カレーなど。楽しく活動するためには、とても大切な時間です。

### 【参加者の声】

・「飯は天である」この言葉を思いながら賄い飯を食らう。この卓を囲みながらの団欒が好き。



### ★TENOHASIIの味

用意する野菜汁は約180リットル。大きな寸胴を3つ使用し、切った野菜と鶏肉をじっくり煮込んでいきます。美味しい食事を提供するため、ベテラン・初参加関係なく、意見を出し合いながら調理をしています。

ご飯は並ぶ人数を予想し、8リットルの釜を6〜8釜炊いていきます。1釜8リットルの米を研ぐのはかなりの力仕事です。

### 【参加者の声】

・お互いに味の感想を言い合っていると、こういうちょっとした意見交換の積み重ねも含め、公園で食される方々を思いながら調理をする「TENOHASIIの味」へと日々更新されていくのだらうと、なんとなくそう感じました。

・大量のご飯を作ることがとても新鮮で楽しいです。

### ★調理班の思いを乗せて

調理した食事は保温容器に移し替え、トラックで公園へと運びます。調理班の思いを公園班へ引き継ぐため、ドライバーは慎重に公園へと向かいます。

### 【参加者の声】

・自分の視野を広げるために参加しています。  
・家族の老いに接し、私にはまだもう少し誰かのために行動する時間があると思いを参加しています。

・色々な人と出会い、話せる温かい環境がうれしい。

### ★おわりに

時々公園に行って食べた方の感想を聞いてみると、「美味し

くなかった」と言われることも・・・毎回美味しい食事が提供できるよう工夫をしていきたいと思えます。また、ボランティア参加者に「参加してよかった。楽しかった。」と思って頂く事は、活動を継続する上で重要なことだと感じています。ボランティアが参加しやすい環境作りにも引き続き取り組みたいと思います。

## 炊き出し公園班

炊き出しの後半は公園での活動です。

### ① 設営

東池袋中央公園にトラックが着くと、ボランティアも初参加の方も一緒に荷下ろし・会場の設営を行います。

### ② 衣類配布 午後4時半

まず最初は衣類です。最初に全国の皆さんから寄せられた衣類をブルーシートの上に出して、上着・スポン・下着・アメ

ニティなどに仕分けします。その頃には五〇人くらいが既に並んでいて、用意ができたら順番にブルーシートに進みます。「ジャンパーある？」の「仕事に行くズボンが欲しいんだけど」



みなさんのニーズは様々です。聞かれたボランティアも、いま寄付品の箱を開けたばかりで、要望通りのものがあるかわかりません。かくして、欲しい人とあげたいボランティア

アが一緒になって探す光景があちこちで繰り広げられます。年間通して人気なのはスニーカー。路上生活の必需品ですから、いい状態の寄付品はまさきになくなります。冬は凍死を防ぐ厚手のジャンパーやジャケット類。

1回にももらえるのは1つだけとさせてもらっています。ダウンジャケットも歯ブラシも1点は1点。他も欲しい人はもう一回列に並んでもらいます。お望みのものをゲットできた人は満面の笑み。「ありがとう」「いいものもらった」と見せてくれたりします。

### ③ ドリンク配布

ほっと一息のドリンクも配布します。寒い季節はホットコーヒー、暑くなるとアイスコーヒーやスポーツドリンク。毎回一〇〇人近くの方が飲みに来ます。

コーヒーを飲みながらのおしゃべりがあちこちで始まる景色も楽しいものです。

### ④ ボランティアアツア 5時

衣類配布が一段落したら、初参加のボランティアの皆さん

を集めてのツアアを行います。あのテントで何をしているのか、なぜこの公園でやっているのか、等々。平均10人、多いと30人の初参加の方に説明している様子はまさにツアアです。

### ⑤ 医療相談・生活相談 5時

テントの中では医師や看護師が希望者の血圧を測ったり、痛む足腰を診て湿布と痛み止めを出したりしています。

隣のテントでは相談員と希望者がじっくりとこれからの生活について話しています。そして病院への紹介状を出したり、週明けに生活保護の申請をしたりして、つぎのステップに繋がるお手伝いをしています。TENOHASが最も重視するのは「路上脱出の支援」です。

### ⑥ 配食 6時

いよいよ炊き出しの配食です。5時半からボランティアはミーティングを行い、配置を決めます。その頃にはすでに100人以上の列ができています。



そして時間ぴったりに配食開始。10人ずつ来てもらい、ご飯の入った丼を渡し、そこに肉と野菜たっぷり汁を掛けて食べてもらう汁掛けご飯。この世界では「ぶっかけ飯」です。あつあつの丼を抱えた人は、2杯目をもらうために食べながら列に並び直したり、その場に座ってゆっくり食べたり。あちこちで湯気が立ちます。中には3杯4杯とおかわりする猛者も。ボランティアも腹は減りますから交代で食べます。

みなさんがたっぷり食べてもまだ残っている場合はパツクに詰めて希望者に配ります。「早めに食べきってね」といいながら。

「ありがとう」「ごちそうさま」と言ってもらえるのはボランティアの報酬です。

## ⑦ 掃除

皆さんが帰ったら、公園の清掃です。公園清掃の業者さんの迷惑にならないように、ボランティアがホウキを持って公園中を掃除して回ります。来た時よりも美しく。

## ⑧ 締めミーティング

最後にみんなでふりかえりをします。人数・医療生活相談の報告・気が付いたことなど。最後にスタンプからのお願いをして、みんなで「お疲れ様でした」でもこの後も洗い物が・

(清野)

## 炊き出し医療相談

- 実施回数 通常24回+越冬期間3回
- のべ受診者数 1128人
- 紹介状発行数 16通
- ボランティア参加のべ人数… 医師60人、看護師55人、ロシ・サポート159人
- (※医師、看護師、ロシそれぞれ約10人程度のボランティアが持ち回りで参加)
- 医薬品の寄付(風邪薬、湿布類、トローチ、細粒胃薬)

医薬品購入経費…約46万円(夏祭りに配布の虫よけスプレー約12万円を含む)

炊き出し相談会の1回の受診者数は40〜50人です。

相談者の主な症状は、高血圧・風邪や胃痛・腹痛、また肩腰膝などの痛み、肌荒れや虫刺されによるかゆみなどです。

相談者はリピーターの方が多く、毎回、血圧を測り、医療班でお渡ししている簡易なお薬手帳に記録して血圧を管理されている人がいらつしゃいます。やはりどの年代でも血圧が高めの方が多く見受けられます。

季節によって、アレルギー性鼻炎や目のかゆみ、ひどい咳を訴える方が多い時期もありました。

これらの症状には、寄付して頂いたり、世界の医療団で購入したりした市販薬を適宜お渡しして対応しています。

また、昨年度はとくに精神科の相談が増えました。

昨年夏頃から、医療機関または福祉事務所宛ての紹介状を



発行する機会が増えました。これは、診療の際に各医療者がなるべく丁寧に話を聞くようにしたところ、路上の方が医療に繋がれていないのはもちろんのこと、すでに福祉に繋がっていてもご本人の希望する医療を受けられていないことがわかったため、医療機関や福祉事務所と折衝する際の一助となるようにご本人が希望する場合には紹介状を発行した

結果です。

医療相談会は医療機関の代替になるのではなく、路上生活から脱し安心した住まいを得るためのきっかけ作りの場、いわば入口の役割と考え活動しています。医療相談ボランティアが、相談者に「きちんと病院に行った方がいいですよ」「このままでは心身の健康を害することになりますよ。生活のことも相談しましょう」といったアドバイスをしたことをきっかけに、生活福祉相談に繋がるケースが増えました。

2018年度の医療相談会では、緊急に治療が必要と判断されたケースが3件ほどあり、2名の方はゆうりんクリニックに、もう1名は、都内で眼科の救急にかかれる病院を探し、医療班の車でソーシャルワーカーが付き添い受診に繋がりました。

救急車で搬送した場合には搬送先の病院に対応が委ねられるので医療班・生活相談班の手を離れてしまうのですが、こうしてプロジェクトで救急対応できたことにより、その後ご本人が福祉に繋がるところま

で継続的に支援ができたことは大きな収穫でした。

課題は、医療ボランティア参加人数に波があり、スタート時点で医療者がゼロという日も幾日かあったことです。偶然、調理配食のボランティアに参加されていた医療者の方に急遽対応していただいたことも。今後は、継続的に参加できるボランティアの募集を積極的に行っていくきたいです。医師・看護師のみなさまお待ちしております。

(世界の医療団 武石)

## 鍼灸班

### ★活動内容

毎月第2・4土曜の炊き出しの日に、公園内にテントを張りベッドを設置して、はりとお灸を使った鍼灸治療を希望者に無料で提供しています。

### ★当日の動き

15:00東池袋四丁目はりきゆう院に集合、テント・ベッド・毛布・受付用のテーブルやカルテなどの器材をリヤカーに積んで出発、公園にて準備。  
16:00受付開始。利用希望者が多いので抽選で順番を決めます。それから治療開始。  
18:00ごろ 治療終了。・片付け開始、撤収、はりきゆう院へ戻って片付け、  
19:00頃活動終了。

### ★参加者

①鍼灸師…各回の参加者は1〜3人ですが、患者さんの人数や状態には足りていません。

① 受付係…1〜2人でカルテや順番の管理、問診を行ないます。

③準備・片付け・運搬…参加の鍼灸師と受付係で行ないますが、公園のおじさんがいつも協力してくださいます。人手不足の時はTENOHASAに応援要請し、手伝ってもらうことも度々あります。

### ★利用者

生活保護や年金生活、ネットカフェや路上生活の方々と様々です。40〜70歳代の男

性が多いですが、20〜30代の若者や女性の利用も少なくありません。

症状では、首・肩・背・腰・下肢、坐骨神経痛など身体各部の痛みやしびれの訴えが多く、その他に頭痛、むくみ、倦怠感、顔面神経麻痺、不安感など多岐にわたっています。鍼灸治療はWHOでも様々な症状や疾患に有効性があるとされているように、月に2回という限られた頻度ではありますが、東洋医学として様々な病状に対応しています。

★この1年での変化とこれから

一昨年までは、「鍼灸師2人と受付1人を最低必要人員とし、これに満たない回は活動を中止する」としていました。患者さんは毎回10人前後いらっしゃるのですが、鍼灸師1人につき5人前後の治療を担当し、19時すぎまで治療することもありました。

昨年夏頃から鍼灸師が1人のみという状況になることがあり、希望者全員を治療することが難しくなったため、鍼灸師の人数から患者さんの定員を

決めて人数制限し、くじ引きをすることにしました。ここ半年ほどの患者さん数は各回7-8人と以前より少なくなっています。これは、人数制限が定着してきたこと、定員オーバーでお断りする方や待ち時間が長くなりキャンセルされる方が毎回のように出ているためと思われま。

鍼灸師・受付係ともにこれまで常時募集してきましたが特に鍼灸師の確保がさらに厳しくなっています。

今後も、参加メンバーの確保に努めつつ、作業の簡略化や応援要請により治療時間を確保し、希望者に適切な治療を提供し、活動が継続できるように工夫していかなければならないと思っています。

(嶋田)

## ほっと友の会(お茶会)

### ★活動

毎月第4土曜の炊き出しの日、みんなでお話をする活動です。公園内にダンボールを敷いて輪になって座ります。はじめにコ

ーヒーや手作りのお菓子を食べ、歌を歌い、ゲームをします。そうして場があたたまった後、落ち着いた雰囲気の中で話し合います。お互いの話を聴き合い、わかち合う時間です。

昨年度は、1回あたり平均12.3名の参加でした。例年通りでした。

### ★感謝

毎回の活動は、様々な方々からのご支援に支えられています。カトリック池袋医療班や世界の医療団の皆さま、炊き出しの場を守ってくださっている皆さま、いつもありがとうございます。

### ★昨年度良かった点と困った点

昨年度は、ほっと友の会(以降ほっと友)を大切な場と想ってくださっている常連の方々が、継続して深く参加された年でした。自分の話をなんでも受け容れて聞いてくれる、ここでみんなが待っていてくれる、そうした信頼を寄せてくださいました。今の状況や仕事について、身体の不調や入院のことなど、ご自身の大切なことをほっと友の場においてやスタッフに対して話してくださいました。長いおつきあいになる方も多く、

俺も変わったなあ」彼は相変わらずだね(笑)」といった会話を笑顔で交わします。そうした雰囲気は初めて参加される方にも伝わるのか、会が終わるころにはにこにこ楽しそうな顔になる方が多かったです。

一方、困った点は、新しい方の参加が減っている点です。これまでも、ほっと友の存在は知っていて、1、2年経ってから参加される方などがいらしたのですが、スタッフが必要ないため、新しい方にお声かけができず、機会があれば参加したいと思っている方の要望に応えられていないように思います。



会にどうやって来ていただくかが課題です。

### ★今後の方針

今後、安心して自分の話をすることができ、友だちの話を聴くことができる場づくりに努めます。毎月、顔を合わせながら共に人生を送る仲間となるような、そうした会を目指していきたいと思えます。

### ★おわりに

昨年の報告に、長期入院される常連の方について書きましたが、その方は、得ていてくれるのがわかるから、安心して過ごすし、また戻ってくるよ。」とおっしゃっていた通りに、元気に戻っていらっしゃいました。

会に数年ぶりにいらっしやる方から会から離れる方、いつも来てくださる方、そうした皆さんの皆さんの記憶が積み重なりながら、活動は続いています。

このような活動をいいなと思われ方、ぜひボランティアにいらしてください。お待ちしています。

(稲見)

## 生活応援班

1、炊き出し夜回りの生活相談

### ①相談者

炊き出しでの生活相談者は2018年度に99人。夜回りの相談者はきちんとした集計ができていないのですが、年間で40人程度と思われる。その約半数の方を生活保護・自立支援センター・就労につなげました。

50代以下の若い人の相談が増えて過半数になりました。若年化が進行しています。

### ②忘れられぬ方々

その1 池袋駅で5年くらい前から路上生活をしていた60代男性。「生活保護を受けませんか」と誘っても静かに笑って首を横に振るだけ。しかし、体調が悪化して「病院に行きたい」とおっしゃったので急いで病院を手配したのですが、最後の最後で「やっぱりいい」とドタキャン。その後何度誘っても「いい」とおっしゃっていました。

一ヶ月後、いよいよ悪化して

駅の地下通路でへたり込んでいました。「病院に行きましよう」。答えは「はい」。その翌日に生活保護を申請して入院されました。これで安心と思ったのもつかの間、翌週に多臓器不全で亡くなりました。手遅れでした。



その過程で、それまで名乗っていた名前は偽名だったことが判明。天涯孤独の方かと思っただら、実は30年前に失踪してからご家族がずっと探していらしたこともわかりました。

二ヶ月後、故郷のお兄が遺骨を引き取りにこられ、私たちに多額の寄付を下さいました。この方がなぜ失踪され路上生活化したのかは今も謎のままです。

その2 同じく池袋駅で20

年以上野宿していた女性。一月から体調が悪化して胃液まで吐くようになっていました。何回も入院を勧めましたががすべと拒否。

しかしさらに体調が悪化してきたので、夜回りで「病院に行けなくても、お風呂だけ入りませんか」と誘ったら頷かれたので、翌朝迎えに行ったらすでに救急搬送された後でした。私たちと同様に前から声を掛けていた豊島福祉の職員が救急搬送の同意を取り付けたそうです。そのまま入院となりました。すんでの所で間に合ったケースとなりました。

### ③スタッフ不足

それまでの職員が産休・介護休で現場を離れたので、清野が中心になって現場を回しました。

平日に動けるボランティアスタッフが助けてくれてどうにかやっていますが、人手不足は変わりません。常勤職員を雇う財力ががないので、ボランティアで、または非常勤で参加して下さる方を募集中です。

2、ハウジングファースト

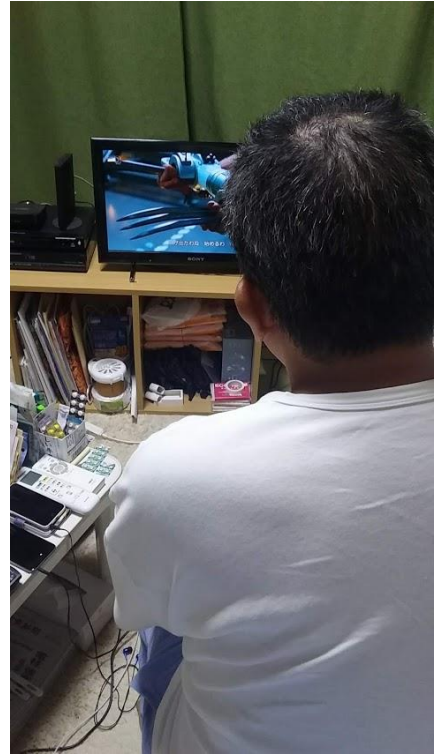
首都圏では路上生活者が生活保護を申請すると、当面の仮住まいとして、集団生活で高額の料金を取られる「無料低額宿泊所」を紹介されるのがスタンダードになっています。しかし、そのストレスに耐えかねて失踪して再び路上生活に戻る人が後を絶ちません。

そこで、最初から普通の個室アパートに入って、必要に応じて支援を受ける「ハウジングファースト」を日本でも広めようとするのが「ハウジングファースト東京プロジェクト」です。TENOHASと他6団体で実施しています。

そのためにTENOHASが管理している個室アパートは、今年2月に一部屋増やして9室です。

### ①個室シェルター

9室中、6室が、路上生活から脱したい方に4ヶ月契約で提供している仮住まいの個室シェルターです。利用者は生活保護を利用してしばらく生活し、福祉事務所からアパートで一人暮らしができること認められたら自分でアパート契約



部屋でくつろぐSさん

をして引越します。

昨年大きなトピックは、池袋西口公園で最後まで野宿されていた男性5人組全員が路上を脱したことです。改修工事のために1年間閉鎖されることとが決まって排除の圧力が強まっても「ぼったくりの寮(宿泊所)なら行かない。最後まで野宿する」という姿勢でしたが、「それよりも、個室アパートのシェルターがあるから使いませんか」とお誘いしたところ全員が賛成され、空いたシェルターに空きが出たら順次ご案内して、1年掛けて全員がご自分のアパートに引越されました。今はみなさんご自分のアパートでの生活を楽しまれています。2018年度に個室シェ

ルターから自分のアパートに入った人は7人(前年度11人)。予定よりもだいぶ少なかったのが残念です。福祉事務所からなかなか引越しOKが出なかったのが大きく、シェルターからアパートに移るまで最長で13ヶ月、平均7ヶ月という長期滞在を余儀なくされました。今後、行政への働きかけ・連携を強めて早期の引越しを実現することが課題です。

### ③ 長期利用

9室中3部屋は、障害や高齢などから独力ではアパート契約が難しい人のための長期利用の部屋です。みなさん、ゆるりんクリニックやヘルパーの支援を受けてアパート生活を継続中です。(清野)

## 夜回り



夜回りは毎週水曜日の夜。池袋で路上生活をされている約70人の方々に、パンやおにぎり、支援情報が掲載されたチラシを配りながら、医療・生活相談を行っています。

パンとおにぎり作りは、あさやけベーカリー(あさやけ子ども食堂と、連携団体べてぶくろのフリースペースで行っています)。

作っているのは元路上生活で現在地域生活に移行された

おっちゃん・おにちゃん達と、世界の医療団のスタッフやボランティアです。

どっさり作ったパンとおにぎりを池袋駅前公園に持っていき、待っていた人たちに配った後、5つのグループに分かれて夜回りをします。

みなさんの声を聞くと、一番人気は焼きそばパンのようです。

最後に集合場所にて、路上の方からの相談事や変わったことはなかったか等、みんなで情報共有して解散という流れで行っています。大学生さんの参加も多く、新鮮で率直な感想を頂いています。

パンやおにぎりを手渡すときに、「ありがと」と言っていただけることが率直に嬉しく、励みになっています。夜回りの活動では、路上生活をされている方々と近い距離で接し、話をする事ができます。長く活動されているボランティアさんとは顔見知りになられていて、関係性が築かれています。これが同えます。夜回りは、ただ食料を配布しているというわけではありません。地道に関係性を



築き、路上生活をされている方お一人おひとりが、どのようなことを必要とされているのかを知り、必要な支援、資源に繋ぐ活動です。

わたしは活動に参加してまだ日が浅く、ベテランボランティアさんにくっついていているのが精一杯なのですが、ベテランさんの負担を軽減できるように、自分が出来ることを自分なりにやっけていきたいと思っています。まずは、路上生活をされている方々が困りごとを気軽に相談しやすいような雰囲気づくりを心掛けて、関係性を

築いていきたいです。

路上生活をされている方を、小さな頃は何も知らず「汚いなー、なんか怖いなー」と思っていました。路上生活をされている方々の実情を知ったのは、7年前程でしょうか。ハートネットTVで貧困問題の特集を観たのがきっかけでした。相対的貧困、不遇な生育歴、障害の無理解、さまざまな負の連鎖から路上生活に陥った方々のことを知りました。衝撃が走りました。なんともやるせない気持ちになりました。同時に、「わたしも路上生活者になっていたかもしれない」と、自分事だと感じて涙が溢れて止まりませんでした。詳しいことは割愛しますが、路上生活をされている方々に自分が重なったのです。それが、わたしが活動に参加することになったきっかけです。

さいごに、TENOHASの活動は和気あいあいとしていますので、みなさまお気軽にボランティアに参加してみてくださいね。また、みなさまのご寄付で支えられておりますので、どうぞ、ご協力お願いいたします。

(平田)

## ハウジングファースト 東京プロジェクト

路上生活から脱するのが難しい原因として、「福祉の支援がない路上の障害者」の問題と、「生活保護やで提供される環境が過酷である」という問題が挙げられます。そこで「誰にでもまず安心できる住まいと支援を」を掲げて行っているが「ハウジングファースト東京プロジェクト」。昨年は9年目で、7団体が連携して行っています。

なにせ7団体でやっていますから活動の中身は複雑多岐なのですが、ここでは架空のシミュレーションで簡単に説明します。

Aさん 70歳

東北某県の中学を卒業してからずっと土木業で働いてきた。しかし、高血圧と腰痛で働けなくなり、3年前から路上生活。アルミ缶集めや日雇いの仕事で生きてきた。生活保護を受けたこともあるが、相部屋で知らぬ者同士が共同生活・門限・

禁酒・保護費がほとんど手元に残らないという生活に嫌気がさして路上に戻った。

4月10日 炊き出しで、世界の医療団がコーディネートする医療相談に。医者から「高血圧は放置すると危険です。生活保護を受けて治療しましょう」と言われたが「保護は受けたい」と断った。でもTENOHASIの生活相談員から「個室のアパートが空きました。すぐ入れますよ」と聞いて「個室のアパート？なら世話になろうかな」

4月13日 個室アパートの大家であるつくろい東京フ



アパート契約



訪問看護

アンドと契約。翌日に生活保護申請。「これでゆっくり眠れる」  
 4月28日 生活保護が決定。ゆうりんクリニックで内科を受診し、高血圧の治療を開始。  
 診察の中で、「気分がふさぎ込んでなにもできないことや、眠れないことがある」「誰も居ないのに自分の悪口が聞こえる」などの話があった。精神科医が診察して、精神障害者手帳の取得と、訪問看護ステーションKAZOCから訪問を受けて相談を受けられるようになる。

7月14日 福祉事務所からアパートOKと連絡を受けて、



夜回りで配るパンは自分たちで

5月25日 TENOHAS Iの支援で住民票が復活。マイナンバーカード・携帯電話の契約も進めることに。「これでやっと自分のアパートを契約できる」  
 6月15日 「手伝ってくれませんか」と言われて、夜回りのパンとおにぎり作りに参加。「ひさしぶりにいろいろな人と一緒に働いて楽しかったよ」。そこで仲良くなったべてぶくろのメンバーに誘われて食事会や当事者研究にも参加するようになった。



今日からここが我が家

habitat for humanityのスタッフと共にアパート探しを開始。不動産屋巡りをしてようやくいいアパートが見つかった。  
 8月1日 念願の「自分のアパート」入居。  
 それからはTENOHAS Iの炊き出し夜回りのボランティアをしながら、趣味の将棋を楽しんでいる。  
 その後、ゆうりんクリニックで月1回精神科・内科を受診して、訪問看護ステーションKAZOCのスタッフも週一で来てよろず相談に乗ってくれる。

ばかりだったけど、やっと落ち着けた」

### トピック

#### 就労継続支援B型事業所

#### ”BASE CAMP” 開所！

「べてぶくろ」が主体となつて、精神障害のある方の仕事の場ができました。

「支援者の当事者研究」などの各種公開イベントを行っていますので皆様ご参加ください。

# 生活保護なんて知らなかった。死ぬしか無いと思ってアパートを出た

「ホームレス』はみんな怠け者」と思っている方がいますが、これはほとんど都市伝説です。

逆に、真面目で不器用すぎてホームレスに成ってしまったと思われる人が一定数いらっしゃると思います。

ここでご紹介するYさんもそのひとり。地域で孤立して、年金も生活保護もわからなくて過酷な路上生活をおくってられました。ぜひお読みください。

\*プライバシー保護のため一部を替えています。



By Geoff Read

\*イメージです

Yさん、本日はどうぞよろしくお願います。早速ですがYさんは今おいくつなんですか？

Y 昭和22年生まれだから今は、72歳なのか？

です(笑)。ご出身はどちらですか？

Y 山形。サクランボが採れるところ。

いいところですね。いつまで故郷にいらしたんですか？

Y うちはお金がなかったから、中学校を卒業してすぐ東京に出て靴屋で働いたの。でも寂しくなっちゃって半年で山形帰っちゃった。

15歳じゃ寂しいですよね(笑)。そのあとはどうされたんですか？

Y 地元での菓子屋ね。おばさんが菓子屋やってたから手伝ってた。そのあと、おばさんの

紹介で名古屋のお茶屋でしばらく働いてた。合計10年くらい。

それからはどんなお仕事を？

Y だいたい運送屋。30年位やったかな。自分で軽トラック買って、組合から仕事もらってた。宅配だったり、会社の荷物運んだり。

普通の荷物だけじゃなくて、音楽をテープに録音して、有線局に持ってく仕事をしばらくやってたこともある。

え？Yさん音楽やってたんですか？

Y 違う違う。ピクチャーって会社から音楽のテープを買って、有線放送の会社に配達してただけ(笑)。そのテープを喫茶店とかのBGMで流すの。

なるほど。ネット配信とかができる前の、昭和の話ですか(笑)

Y その前は営業もやってた。

営業も！

Y 金属部品を扱う会社で。10年くらいしたかな。

ご結婚はされたんですか？

Y 名古屋にいた頃にしたよ。子供も二人。でも上の子が小学校あがったくらいで離婚した。

そうなんですね。お子さんとはいっしょに暮らしてらっしゃいますか？

Y ずっと音信不通だったんだけど、数年前に突然、上の子がアパートまで来てくれたの。プレゼントもって。でも連絡先は聞かなかったから、今はどこにいるかわからない。下の子はもう全然わかんないから。

そのころお住まいはどこだったんですか？

Y 埼玉。アパート借りてた。

ずっと仕事されて、お家もあつたんですね。それがどうい

うきっかけで野宿になったんですか？

Y 仕事に行き詰まったことがきっかけ。70歳近くになったら運送の仕事が減っちゃって、組合に頼んでもなかなか仕事を回してくれなくて、軽トラツクのローンとか家賃とかが払えなくなっちゃったの。

で、もう食えねえし、このまま死ぬのかなと思って。それで車はローンが残っているから車屋に返して、荷物は置いたままアパートから逃げちゃったんですよ。

死ぬつもりだった…？

Y そうですね、死のうと思っただね。

生活保護を申請しようとか思わなかったんですか？

Y 生活保護のことなんか知らなかったから、もうどうしようもないと思った。

で、死に場所を求めて？

Y うん。

アパートを出てたのはいつ頃ですか？

Y だいぶなりますよね。いつ

だったかな。いま2019年ですか。だったら2017年か。いやもうちょっとあとか、まあそこらへんだと思うんだよね…もう忘れた。



死に場所を求めて歩いた

それがどうして池袋にたどりついたのでしたか？

Y 川越とか熊谷とかぐるぐる歩いたけど死ねなくて…プラプラプラプラ池袋まで歩いてきた(笑)

死ななくてよかったですよ

Y そうね、今にして思えばそうですね。

路上生活になってからはどこにいらしたんですか？

Y 夜は池袋の駅の階段。夜1

時を回ると駅のシャッターおりますよね。シャッターがおりてから、駅前の階段にダンボールしいて寝てたんですよ。

昼間はどこにいたんですか？

Y 昼間は商業ビルの休憩用のベンチで寝てました…。夜、ろくに寝られないから、昼間そこで寝るしかない。起きてるときは、池袋駅の通路のところにいた。

食べ物はどうしてたんですか？

Y 池袋駅にいたら、TENOHASの夜回りの人がおにぎり持ってきたから、それを買って食べて。それで炊き出しもあるって聞いたから、それも食べに行ってた。

え？それだけですか？倒れたりしなかったんですか？

Y それはなかったね、週1の夜回りで貰えるおにぎりと、2週に1回の炊き出しでもご飯出るから。なんとかなったね。

それは「なんとかなった」のレベル超えていますよ(笑) お水

は飲まれたんですよ？

Y それはビルのトイレにペットボトル持って、ボトルに水いれて。それこそ水がほとんどって感じ。

じゃあ、Yさんは、TENOHASがやる2週に1回の炊き出しと、水曜日のおにぎりだけで、他には食べてなかった？

Y あとは食べてなかった。

ホントにそうなんですね!?

Y 食べられないですよ、お金ないから。

誰にも相談されなかったんですか？まわりに他の野宿の方もいますよね。どうやって食べてるとか、そういう会話にはならなかったですか？

Y 知り合いなんていなかったもん。いつも寝たところには4人いて、1人とは少し話はしたけど、他の人は起きてからどっかいっちゃうから。

同じ野宿の人が居ても情報をもらえるとは限らないってことです。

Y そう。みんなどっか行っちゃってるの。だからひとりでのピルのベンチにいたんだけど。

じゃあ、1週間に1食みたいな食生活を数ヶ月続けられてたんですか？

Y おにぎり持ってくるのは水曜日ですっけ？それ1個もらって、あとは土曜日の炊き出し。

それ体調くずしますよね？

Y まあね、あんまりいいとはいえなかったね。

それでも冬とか越されてるわけですよね？

Y そんなに人間ヤワじゃないのかな。冬は越したね。分厚い服を着て、夜はそこらへんにダンボール探しに行って、風を避けて。

そういう生活じゃあ、不安で仕方ないと思うんですけど。

Y 不安と言うより、そもそも死ぬつもりで家を出てきたし、炊き出しとか知らないから食えるとも思わないし。ずーっとブラブラ歩いて、階段に来て寝てっていうことしか頭なかったから。

だから。

じゃあ、こういうTENNOSH ASIみたいなボランティアの団体があるってことも知らなかった？

Y 知らなかった。駅にいたらおにぎり持ってきてくれて、それでやっとそういうのがあってわかったくらいだから。

最初おにぎりもらってビックリしませんでした？(笑)

Y ああ(笑)びっくりした(笑)そんなのあると思わなかったし。しかも、1個でも結構大きかったから、すごい美味しくてね。おにぎりが余ってたら2個置いてってくれたら。

夜回りでは毎週同じメンバーがYさんのところに回ってきました？

Y そうですね、女の人とあと3、4人一緒に回ってきたのかな。

じゃあもしかしたら私もお会いしてるかも？

Y うん、会ってるかもわかんないけど、こっちはただ黙って立ってるだけだから。相手の人



池袋駅の階段で

の顔なんかみてないし(笑)

炊き出しはどうやって知ったんですか？

Y だいぶ野宿をしてからだな。誰かから、サンシャインの横で、炊き出しやってるって聞いて。最初行ったときは三杯くらい食ったのかな？美味しかった。

それから生活相談にいらしたんですか？

Y 夜回りでもらったチラシに、生活の相談に乗ってくれるって書いてあったから一応話だけ聞いてみようかなって。そこで、生活保護のこととか詳しく説明してもらって。

じゃあ、相談するまでは、生

活保護とか全く知らなかったわけですか。

Y そうですね。

それじゃあ、ずっとこのままだろうと思ってたわけですか？

Y そうですねえ。

でも相談して、それからTENNOSH ASIのシェルターに入居できたんですね。

Y ええ。今度、一部屋空くから入りませんか、って言われてどうにか。

シェルターに入った時はどんな気持ちだったんですか？

Y その時は、ほっとしたというか・・・いきなり部屋に入れるなんて思ってたから。

まあ、命繋いだって感じですよ  
ね(笑)。もうあのままだったら  
死ぬしかないから。

それから生活保護を申請さ  
れたんですね。

Y 清野さんと一緒に役所に  
行って。いろんな書類を書かさ  
れて(笑)

そうですねですか。今は普通に  
食事できるようになったんで  
すよね、週に1食じゃなくて  
(笑)。

Y ええ、まあそんなにたくさ  
ん食べるわけじゃないけど。

自炊はされるんですか？

Y いや、料理できないでしょ。  
だからパックのご飯ばかり。お  
かずはコンビニとかで買って。  
2, 3品あれば。

そろそろシエルターに入っ  
て3ヶ月ですよ。そろそろ次  
のアパート探しを始められる  
と聞きましたか？

Y そういう風に聞いて居る  
けど。でもここは家具とか最初  
からぜんぶあったからよかつ  
たけど、次のアパートはどうな  
るのかな。

自分のアパートに移るとき、  
冷蔵庫や洗濯機とかがない人  
には生活保護からお金が出ま  
すから、それで買えますよ。  
Y そうですか、それなら安心  
です。

いいアパートが見つかるこ  
いいですね。

Y どうなんかな。どこでも住  
めればいいですよ。贅沢言える  
立場じゃないし。

そんなことはないですよ。こ  
れからずっと住むアパートで  
すからじっくり選んでくださ  
い。

そういえば、実は年金がある  
ことがわかったという話をき  
きましたが。前は買ってなかつ  
たんですか？  
Y いや、全然。わからなかつ  
たですもん。年金がもらえるな  
んで。

なんで受け取れなかったん  
でしょう？

Y ぜんぜんわからない・ど  
うやったらいいかとか、知らな  
いから。

最初から年金を受け取って  
いたら、死のうなんて思わなく  
て済んだし、野宿になることも  
なかったんですよ。



でもそれがあったからこう  
してお話を聞くことができた  
んですね・・・。  
Y そう、それはそれでよかつ  
たかな。人生、結局何がいいか  
なんてわかりませんね。  
いやいや、野宿なんていう過酷  
な経験しなくていいです(笑)。

この2ヶ月後、Yさんは念願  
の「自分のアパート」に入居さ  
れました。上の写真はそこで  
の1コマです。

年金も復活し、今は生活保護  
から脱して年金で生活されて  
います。

なぜ前のアパートにいらし  
た時に前に年金を受けられな  
かったのかは、謎のままです。

インタビュー 山北  
編集・構成 原田・清野

私がTENOHASIに参加したのは今年の1月からです。Facebookの災害ボランティアグループで知り合った先輩から誘われての参加でした。

実はTENOHASIに興味をもったのは、3・11の際、炊き出しを失敗した経験からです。中国製の電気炊飯器で、見事に1升のお米をネチヨネチヨにしてしまった苦い思い出から、月に2度も炊きだしをしつつづけているこの団体のノウハウを学んでみたいとの思いから参加してみたかったのです。

公園での配食、洗い場などに参加して、釜場に恐る恐る入ってみると、ベテランのうさんが嫌な顔一つせず丁寧に教えてくれ、8リットルを6釜、合計48キロもの米を炊き、またとんでもなく大きな寸胴に大量の野菜が吸い込まれていく光景に圧倒されつつも徐々に仕事を覚えて行きました。

そして丁度、長年にわたりトラックの運転をされていたおさんがお仕事の都合で参加できなくなり、ドライバーがいないと困っていたことから、ラン

## 台風被災地支援と TENOHASIの これから



で新しくドライバーチームを作り、皆で交代で運転も務めるようになったりと、ほぼ毎回のように参加するようになったのです。

そしてTENOHASI恒例の夏祭りが終わり、映像作家のTさんが夏祭りの光景を素晴らしい映像にしてくれ、皆であーだ、こーだと楽しんでいたら矢先に起きたのが、9月8日の台風15号の関東上陸でした。

千葉では大規模な停電が発生しましたが、他の方々同様、「すぐに復旧するだろう」と思っていたものの、一週間たっても停電が解消されないことから、「これはただ事ではない」と感じ、3・11からのボランティア仲間「千葉どうする?」とメールしたところ「もう今日、来てる」と返事が来たのが、9月13日(金)の事でした。翌日、彼の乗用車に相乗りさせてもらい、千葉南西部の「安房郡岩井袋」に向かいました。

大田区からアクアライオンを渡り、ほんの1時間半で着いた岩井袋には見たこともない信じられない

い光景が広がっていました。

集落120軒ほぼすべての家の屋根が損傷を受けており、中には丸ごと屋根が無くなっている家もありました。

その地区はもともとパラボランテナを使わなければテレビを見ることができない地域だったので、パラボランテナは全て吹き飛び、停電により、固定電話・携帯電話・インターネット全てが使えなくなり、被害を伝えることもできずに完全に孤立している状態でした。

岩井袋地区はほとんどが高齢の地区で、自宅の屋根が無くなった若い(といっても50代)の男性が、はしこに上ることが出来ない高齢者のお宅にブルーシートをかけてあげていま



した。

その日、作業を終えて東京に戻った私は、「TENOHASIIがいつも公園で使っている発電機で発電することが出来るな」と考え、清野事務局長にTENOHASIIのトラックと発電機の借用を申し出たところ、清野さんは「どうせTENOHASIIで行くなら炊き出し道具も持っていけば？」と冗談なのか、本気なのか分からないことを言われ、「え、そうか炊き出しか・・・」と迷いながらもトラックの荷台に寸胴、炊飯釜、プロパンガスを積み、TENOHASIIの仲間数名と米、野菜、肉を調達しながら翌日、



岩井袋に入りました。

いつもTENOHASIIで釜場にいるJさんも居たことから、ブルーシートをかける作業とは別に学生ボランティア団体の女性2名等と炊き出し部隊を作り、夕食にご飯と豚汁150食分を提供する事が出来ました。

やっと電気は復旧したものの、疲れ切っていた住民の皆さんは、温かい食事に涙を流している方もおられました。

電気、水道が徐々に回復したので炊き出しを行ったのはその1度きりですが、それからは毎週、TENOHASIIトラックを借りて、館山、鋸南町、南房総市で、濡れた畳などのゴミ搬送等のボランティアに通いました。

今まで、災害といえは軽トラというイメージだったので、意外にもTENOHASIIの箱型トラックの積載力が、被災ゴミの搬送に威力を発揮したのです。

また災害復旧中の10月12日には、関東、長野、東北を台風19号が襲い再び甚大な被害が出たことから、八王子、鋸南町、茨城県大子町と、仲間

と駆け回っているうちにあっという間に11月になってしまいました。どこに行ってもTENOHASIIトラックの威力はすごく、軽トラ10台分のゴミを一度に運ぶことが出来る能力はどこに行っても驚かれました。

また、毎週被災地向かう私を見て、

TENOHASIIのメンバーと一緒に被災地に行ってくれた方もおり、皆さん「災害ボランティアというとちよっと敷居が高かったけど、来てみたらそんな事はなかった。来て良かった。」と言ってくれました。

取りとめもない話になってしまいましたが、災害ボランティアをやって来た私がTENOHASIIについて感じたことは以下のことです。

- ・都内に自由に使える拠点を持っている。
- ・常時千食分を超える米を持っている。
- ・一度に200食を超える炊き出しが出来る装備がある。
- ・炊き出しの経験、ノウハウを



持つスタッフがいます。

- ・常に出動可能なトラックを持っている。
- ・発電機・ガソリンタンクを持っている。
- ・社会的に信用と実績をもっている。
- ・呼びかけると集まれる組織力を持っている。

・メンバーに被災地でボランティアを行った人が数名いる。

以上、列挙しましたが、都内広しと言えども、これだけの条件、能力を持った団体は無いのではないかと感じています。

またこのすごい団体の力を災害時に使わないのは非常にもったいないことだ。と感じます。



あとは、何が必要か？  
やる気と行動力、約款の変更のみです。

TENOHASIIが基本的に豊島区その周辺での生活困窮者を支援する団体であるこ



とには変わりはありませんが、毎年のように台風で災害が発生している状況を考えるとTENOHASIIを「被災地で活動することも、出来る」ように約款を変えていこうというところが11月の運営会議で話し合われました。

しかし、災害対応を行うとガソリン代や高速代、更には炊き出しを行うと食材等、多くのお金がかかります。

今回の災害では初回の炊き出しにかかった費用、スタッフの安全を確保するために購入したヘルメット、屋外テント等についてはイレギュラー対応としてTENOHASIIから費用を出していただきましたが、その後のガソリン代、トラックをぶつけた際の修理代等は私と仲間が割り勘で払っています。しかし、トラックを使って活動を続ければ、タイヤは消耗し、結果的にTENOHASIIのお金を使う事にもなりかねません。

「被災者と生活困窮者とは違うのではないか」「TENOHASIIの本来の活動とは違うのではないか」など、TENOHASIIが災害対応を行う事に、違和感を感じる方も多いと思います。

私自身TENOHASIIが災害対応にまで手を出すのはどうか、と思い、トラックを借りる以外は、自分の責任で行っています。・・・

最後に、先週、千葉の被災地で出会ったあるおじいさんの話を書きたいと思います。

その方は元々生活保護を受けている方でしたが、自宅の壁



が吹き飛び、屋根の瓦も飛んで雨漏りして生活できる状況ではない事から、一時、避難所へ避難していました。

しかし、避難所になじめず、人知れず自宅に戻り、唯一雨もりのしていない廊下にベッドを置き、一人で寝ていました。ほぼ2か月の間です。

台所の天井トイレや壁にはカビが生え放題。とても人間が生活できる状況ではありませんでした。

偶然その方を見つけた私の仲間が動き、ブルーシートをかけた屋根を修理できる団体がお金を出し、そして自分たちのお金で床の抜けた場所に床を作り、私がリフォームゴミで出た畳をTENOHASIIトラック

クで持っていき畳を敷きました。  
TENOHASIIのメンバーと私達は、台所、トイレ、部屋の壁からヘラでカビをはがし、なんとか食事介護のヘルパーさんが入れる状況にすることが出来ました。

あまり笑うことのがあったおじいさんは、私達が帰るときに、何度も笑顔で「ありがとう」と。

生活困窮者とは何か。

災害が起きれば我々自身も生活困窮者となりえるのではないか。

何処までをボランティアがすべきなのか。

TENOHASIIの役割とはなにか。

私の中でも全く答えは出ませんが、目の前に困っている人がいる以上、今後もTENOHASIIの炊き出しと、災害ボランティアを両方活動していく中で、少しずつ考えて行きたいと思っています。(大塚)

**TENOHASIの活動**

○炊き出し&医療生活相談&鍼灸マッサージ&お茶会

毎月第2/第4土曜日 東池袋中央公園

○おにぎりと夜回り 毎週水曜日 池袋駅前公園～池袋駅とその周辺

○ハウジングファースト東京プロジェクト

路上脱出・安定した地域生活への移行支援

参加団体：TENOHASI・MDM（世界の医療団）・ベてぶくろ

あさやけベーカリー・訪問看護ステーションKAZOC

つくろい東京ファンド・ゆうりんクリニック

Habitat For Humanity・BaseCamp

**活動資金のカンパをおねがいします！**

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI

銀行振込 ゆうちょ銀行019(セト仔ナウ)支店当座259686 トクヒ) テノハシ  
クレジットカード決済 ホームページからお願いします。

**物資カンパも大募集中！！**

衣類（季節にあったもの。スーツや女性ものは不要）・靴・カミソリ他  
食材（米・缶詰・レトルト食品など。）\*送り先：下の「発送元」らん参照

**お問い合わせ**

メール：TENOHASI ホームページの「お問い合わせ」から

電話：090-1611-1970(事務局長 清野賢司)

特定非営利活動法人TENOHASI

会報第40号 2019/12/1発行

ホームページ <http://tenohasi.org/>

メール [tenohasi@yahoo.co.jp](mailto:tenohasi@yahoo.co.jp)

facebook <https://www.facebook.com/tenohasi/>

twitter <https://twitter.com/tenohasi>

発送元

〒177-0045

練馬区石神井台6-1-28

TENOHASI事務局

TEL 090-1611-1970

この会報誌のweb版をホームページにアップします。

\* 個人情報保護のためweb版では「ご寄付御礼」ページは削除しています。

「紙の会報誌は不要」という方は、お手数ですが上の「お問い合わせ」からご連絡  
ください。

印刷 アビーム(社会福祉法人復生あせび会)